

温故知新セッション

CAP プロジェクト(1) 一ねらいと構想一

玉井哲雄(東京大学大学院総合文化研究科)

[講演概要]

竹内プログラム委員長から「温故知新セッション」のお誘いを受けたが、およそ全国大会で発表した記憶がない。調べてみるとこの5人連名の末尾に自分の名前がある「CAP プロジェクト(1)」が大会予稿集に名前のある唯一のものらしい。登壇発表者は今は亡き広瀬健氏である。

これでは資格がないので竹内さんには一旦お断りしたら、広瀬氏を偲ぶという趣旨で話したらどうかとの示唆を得た。中にはこのような変わったものもあっても面白いかと、お引き受けした。

これは ICOT(第5世代コンピュータ)プロジェクトの1つを紹介したものである。テーマは数学者の道具となる定理証明系の開発である。広瀬氏は CAP プロジェクト委員会の委員長で、共著者の横井氏(現東京工科大)、坂井氏(現筑波大)、横田氏(現岡山県立大)は、ICOT メンバーとしてこのプロジェクトを主体的に動かしていたリーダー達であった。いずれも現在は大学に席を置かれて活躍されている。しかし、このプロジェクトには他にも多くの有力な参加者があった。一部の名前を挙げると佐藤雅彦氏(現京大)、笈捷彦氏(早大)、林晋氏(現神戸大)といった人達である。

筆者は、当時(株)三菱総合研究所に所属し、ソフトウェアの開発その他、このプロジェクトに関わる作業の委託を受ける外注先という立場であった。筆者自身は定理証明系の専門家であったわけではなく、それ以前もその後もこの分野を研究の中心においたことはないが、1970年代のプログラム検証系の開発や、1990年代のモデル検査の応用などで、多少なりとも縁が続いてきたとは言えるだろう。

[略歴]

1948年生。1970年東京大学工学部計数工学科卒業。1972年同大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了。同年(株)三菱総合研究所入社。1985年同社人工知能開発室室長。1989年筑波大学大学院経営システム科学専攻助教授。1994年東京大学教養学部教授、1996年東京大学大学院総合文化研究科教授、2000年同大学院情報学環教授、2003年同大学院総合文化研究科教授、現在に至る。工学博士。ソフトウェアの仕様・検証技術、モデル化技術、進化プロセスの分析、協調計算モデルの開発、等の研究及びそれらの技術の実際的な問題への適用に従事。著書に「ソフトウェア工学の基礎」(岩波書店、2004)、「ソフトウェアのテスト技法」(共立出版、1998)など、訳書に「ソフトウェア博物誌」(トッパン、1997)などがある。日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、電子情報通信学会、日本オペレーショズリサーチ学会、人工知能学会、ACM、IEEE 各会員。